

所属等	甲南大学人文科学研究科人間科学専攻 博士後期課程 2 年次																				
氏名	山口 貴史																				
研究テーマ	<p>【タイトル】 精神分析における事例研究の方法論的多様化に関する研究——記述主体の変化に着目した 3LM と共同執筆の比較——</p> <p>【研究概要】 「誰が語るか」によって事例理解が変わるといった問いのもと、精神分析的事例研究に複数専門家の再分析（3LM）とクライアントとの共同執筆という 2 手法を導入した。記述主体の違いが事例の構造・理解・倫理に与える影響を実証的に検討し、方法論的多様化の意義を明らかにした。</p>																				
成果概要	<p>心理療法の記録である「事例研究」は、支援の質を振り返るうえで欠かせない実践だが、これまでは治療者が一人で書くことが当然とされてきた。しかし「誰が書くか」によって、見えるものと見えないものが変わるとしたら、どうだろうか。本研究はその問いを出発点に、書き手を増やすことで事例理解がどう変わるかを実証的に検討した。</p> <p>具体的には、①複数の専門家が段階的に事例を再分析する「3 レベルモデル（3LM）」と、②終結した事例についてクライアント本人と対話しながら記述を共同で再構成する「共同執筆」という 2 つの方法を実施し、比較した。</p> <p>実施を通じて得られた知見として、まず従来の記述では気づけなかった「盲点」が、他者の視点の導入によって浮かび上がることが確認された。それは事例の意味そのものを書き換えるような発見であった。次に、方法論が異なると事例研究の「成立プロセス」も「成果物の形」も根本的に異なることが明らかになりつつある（図参照）。</p> <p>本研究の成果として、自験例に基づく事例論文を『精神分析研究』に、3LM に関するレビュー論文を『思春期青年期精神医学』に、方法論的枠組みに関する英語論文を『International Forum of Psychoanalysis』にそれぞれ投稿した。</p> <div data-bbox="475 1541 1291 2065" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">記述主体の違いが生み出すもの</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;"></th> <th style="width: 33%; background-color: #f1c40f;">従来の自験例</th> <th style="width: 33%; background-color: #e67e22;">3LM (複数専門家)</th> <th style="width: 33%; background-color: #e74c3c;">共同執筆 (クライアント)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>誰が語るか</td> <td>治療者のみ</td> <td>複数の専門家</td> <td>クライアント + 治療者</td> </tr> <tr> <td>記述のプロセス</td> <td>単独の振り返り</td> <td>構造的・段階的な再分析</td> <td>対話的な再構成</td> </tr> <tr> <td>見えてくるもの</td> <td>治療者視点に限定</td> <td>専門家間の視点の差異</td> <td>クライアントの意味づけ</td> </tr> <tr> <td>「盲点」の扱い</td> <td>気づけない</td> <td>浮かび上がる</td> <td>書き換えられる</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right; font-size: small;">Napkin</p> </div>		従来の自験例	3LM (複数専門家)	共同執筆 (クライアント)	誰が語るか	治療者のみ	複数の専門家	クライアント + 治療者	記述のプロセス	単独の振り返り	構造的・段階的な再分析	対話的な再構成	見えてくるもの	治療者視点に限定	専門家間の視点の差異	クライアントの意味づけ	「盲点」の扱い	気づけない	浮かび上がる	書き換えられる
	従来の自験例	3LM (複数専門家)	共同執筆 (クライアント)																		
誰が語るか	治療者のみ	複数の専門家	クライアント + 治療者																		
記述のプロセス	単独の振り返り	構造的・段階的な再分析	対話的な再構成																		
見えてくるもの	治療者視点に限定	専門家間の視点の差異	クライアントの意味づけ																		
「盲点」の扱い	気づけない	浮かび上がる	書き換えられる																		